

2023年4月11日

報道機関 各位

ボリビア国「シャーガス病母子感染対策向上プロジェクト」が 2022年度 JICA 草の根技術協力事業(※)に採択

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科が、独立行政法人国際協力機構（JICA）の2022年度草の根技術協力事業（パートナー型）にボリビア国「シャーガス病母子感染対策向上プロジェクト」として申請し、採択されました。

- 事業名：シャーガス病母子感染対策向上プロジェクト
- 対象国：ボリビア多民族国
- 相手国実施機関：保健省、サンタクルス県保健局、ラグアルディア市、ガブリエル・レネ・モレノ大学
- 実施期間：2024年1月～2026年12月（3年間）（予定）
- 事業内容：サンタクルス県ラグアルディア市を対象にシャーガス病の母子感染対策の向上を目標とし、シャーガス病の新生児治療のための情報管理方法の改善、医療従事者のシャーガス病に関する知識の向上、妊産婦のシャーガス病に関する知識の向上を図る。

「顧みられない熱帯病（NTD）」の一つであるシャーガス病は、サシガメという昆虫に媒介されて感染する寄生原虫疾患で主に中南米で流行しています。サシガメによる自然感染のほか、母子感染などにより感染し、心疾患や消化器疾患等が生じ死に至ることもあります。ボリビアでは国土の半分以上で流行、感染者は60～180万人と推測されています。殺虫剤散布によるサシガメ制圧で自然感染は減少しましたが、母子感染対策は十分には進んでおらず、母子の健康が脅かされています。長崎大学は20年以上にわたるボリビアでのシャーガス病の研究実績があり、今回のプロジェクトはその実績を活かし、母親の陽性率が高いラグアルディア市で母子感染対策を向上することを目的としています。



熱帯医学・グローバルヘルス研究科の平山謙二教授は、その意気込みを次のように語っています。

「シャーガス病の母子感染は新生児期の診断治療により100%治癒可能であるにもかかわらず、貧困や知識の不足、医療サービスの不備などによって対策が遅れていると言われています。このプロジェクトが成功することで、妊産婦、新生児、子ども、貧困層などの脆弱な人々を中心に地域住民やコミュニティに大きなインパクトがもたらされると期待しています。」

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科

教授 青木恒憲 095-819-7895（直通） MAIL : aoki.tsunenori@nagasaki-u.ac.jp

【JICA 草の根技術協力事業とは】

国際協力の意志のある日本の NGO/CSO、地方自治体、大学、民間企業等の団体が、これまでの活動を通じて蓄積した知見や経験に基づいて提案する国際協力活動を、JICA が提案団体に業務委託して JICA と団体の協力関係のもとに実施する共同事業です。

<https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/index.html>